



PUBLIC TRANSPORT



島田市地域公共交通計画 概要版
令和6年度～令和10年度

島田市地域公共交通計画とは

計画作成の背景と目的

バスや鉄道、タクシーなどの公共交通を取り巻く状況は厳しく、人口の減少やコロナ禍における生活様式の変化などにより**利用者は年々減少**しています。さらに、**人件費や燃料費の上昇が原因となり、公共交通にかかる経費が上昇**しています。

他の自治体では、赤字が拡大して事業継続が厳しくなり、事業者が撤退してしまう路線も出てきています。将来にわたって公共交通事業を継続していくためには、**運行内容を見直し、地域が必要とする公共交通に変化していく必要があります。**

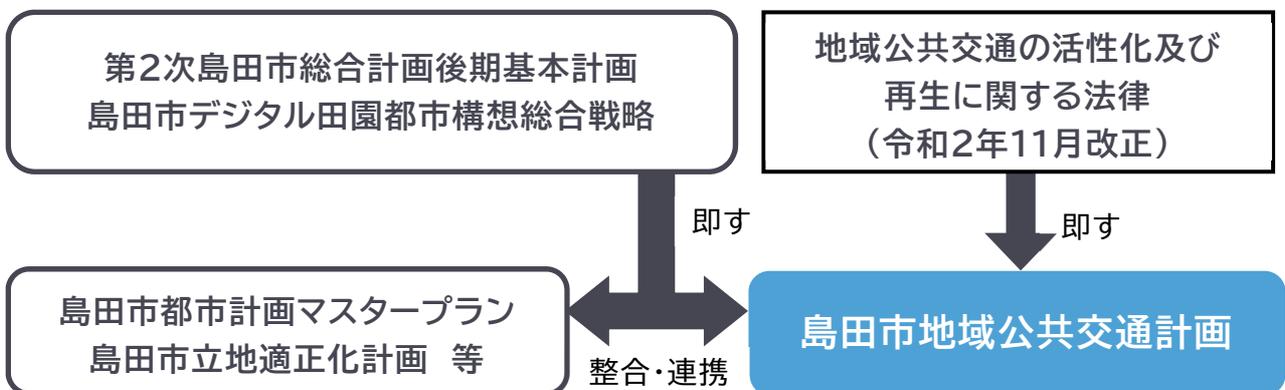
「島田市地域公共交通計画」は、今後の公共交通についての方針や目標を決定し、市民の皆さんにお伝えすることを目的としています。本計画は、地域の代表の方々やバスの利用者の皆様からお聞きした御意見を取り入れて策定しました。今後もこの計画をもとに、地域住民との話し合いを通じて具体的な公共交通のかたちを決定していきます。



計画期間

計画期間は、令和6年度から令和10年度までの5年間とします。

計画の位置づけ

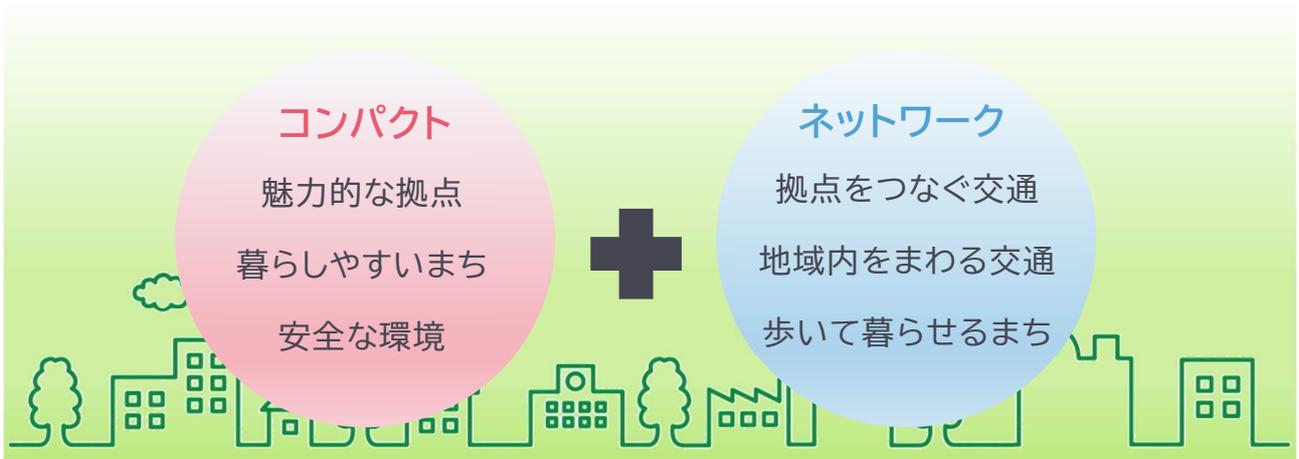


まちづくりとの連動

コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり

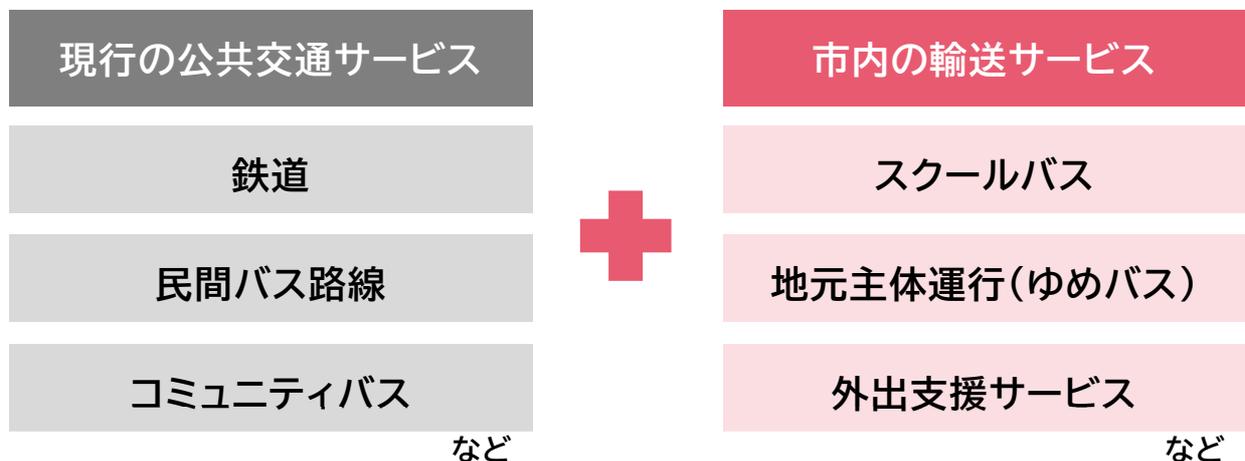
本市では、今後の人口減少社会に対応し、安全安心で快適な居住環境を形成するために、「島田市都市計画マスタープラン」および「島田市立地適正化計画」を策定し、「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを推進する方針を示しています。

本計画では、ネットワーク(拠点間、地域内の公共交通)に関する施策についての方針を示しています。



多様な輸送サービスの活用

島田市内には、鉄道、民間バス路線、コミュニティバス、タクシーに加えて、スクールバスや地元主体運行(ゆめバス)、地区社会福祉協議会による外出支援サービス(金谷応援隊など)が運行しています。従来の公共交通サービスだけでなく、これらの輸送サービスも活用しながら、市民の皆さんの移動手段を確保していきます。



島田市地域公共交通の問題点および課題

地域公共交通の問題点

利用者の悩み



- ・運行本数が少ないため、利用したい時間に利用できない。
- ・自分の家の近くにバス停がなく、バス停まで歩いて行くのが大変。
- ・通勤の時間帯にバスが走っていない、または鉄道との接続が悪い。
- ・バス停がどこにあるかわからない。ダイヤの調べ方がわからない。
- ・運転免許証を返納後の移動手段(買い物、病院)に不安を抱えている。

事業者の悩み



- ・利用者の減少、運転手の不足により、事業継続が厳しくなっている。
- ・回数券を利用できる路線と利用できない路線が市内に混在しており、トラブルの原因となっている。

市の悩み



- ・バスの利用者が年々減少している。
- ・運行業務委託に伴う財政負担額が増加している。
- ・バス車両やバス停標識の劣化が進んでいる。
- ・公共交通に対する市民の関心が低い。

地域公共交通の課題(やるべきこと)

課題1	日常生活を支える公共交通の確保 特に移動に困難を抱える方の買い物、通院、通学、通勤を支える公共交通を確保する	目標 1
課題2	コンパクト・プラス・ネットワークの実現に向けた公共交通網の形成 拠点間や地域内を効率的、効果的に運行する公共交通網を形成する	目標 2
課題3	公共交通サービスに対する市負担額の適正化 特に利用の少ない時間帯や運行区間を調査し、運行本数や運賃などのサービス内容を見直すことにより、適正な予算執行に努める	目標 3
課題4	地域のニーズをとらえた公共交通見直しのための対話の継続 「地域にとって真に必要な公共交通は何か」を官民一体となって探る	目標 3
課題5	利用促進につながる利便性向上策の推進 利用者の目線に立った利便性向上策や情報発信を実施する	目標 4

ワークショップの開催

施策や方針の決定にあたっては、行政の独断ではなく、地域の様々な立場の方との対話が大切です。島田市は、ワークショップを開催して、地域の住民、事業者、活動団体などの意見を聞き取り、計画に反映させています。

公共交通ワークショップ(令和4～5年度)

日常生活、移動に関する地域の方々の困りごとを見つけ、それを解決するためにどのような交通モードが必要かを考えるために、公共交通ワークショップを各地域で実施しました。



移動に関する困りごと

- ・運転免許返納後、買い物や通院に行く手段があるか不安
- ・子どもをバス停や駅まで送迎するのが大変
- ・高齢者が外出しなくなって足腰が弱くなった

こんな公共交通があったらいいな

- ・地域内で安く利用できるタクシーがほしい
- ・複数のスーパーを回れるバスがほしい
- ・移動販売や訪問診療が発達してほしい
- ・家の前から乗れるものがない
- ・自動運転で好きなのところに行けるようになってほしい



まちなかについて考えるワークショップ(令和元年度)

島田市中心市街地活性化基本計画(令和元年度策定)のテーマである「まちなかで住み、楽しみ、働く拠点づくり」を実現させるための様々なアイデアを出し合うために、各地域の住民や高校生、NPOなど様々な立場の人が集まってワークショップを行いました。



地域連携交流会ワークショップ(令和元年度)

島田市観光戦略プラン(令和2年度策定)の推進にあたり、地域の観光分野における課題やめざす姿についての意見を聞き取るために、地域の観光関連事業者とワークショップを開催しました。

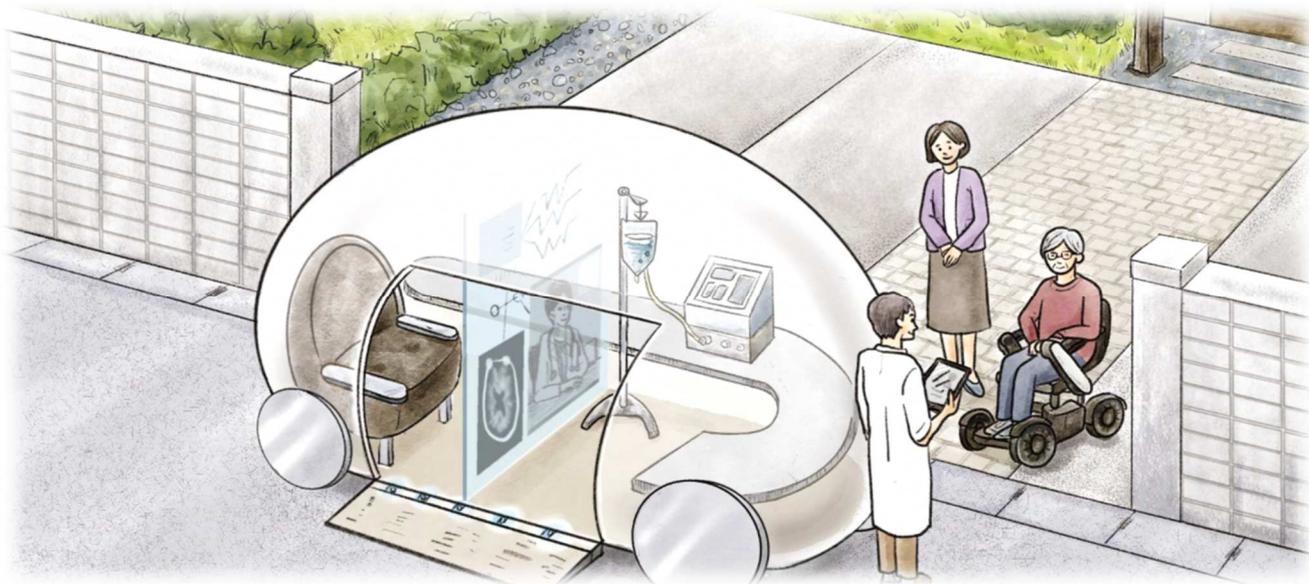


20年後の公共交通のすがた

本市では、ワークショップを通じて未来の島田市の姿について市民の皆さんと一緒に考えてきました。市民の皆さんからいただいたアイデアをもとに、理想とする20年後の公共交通のイメージを整理しました。

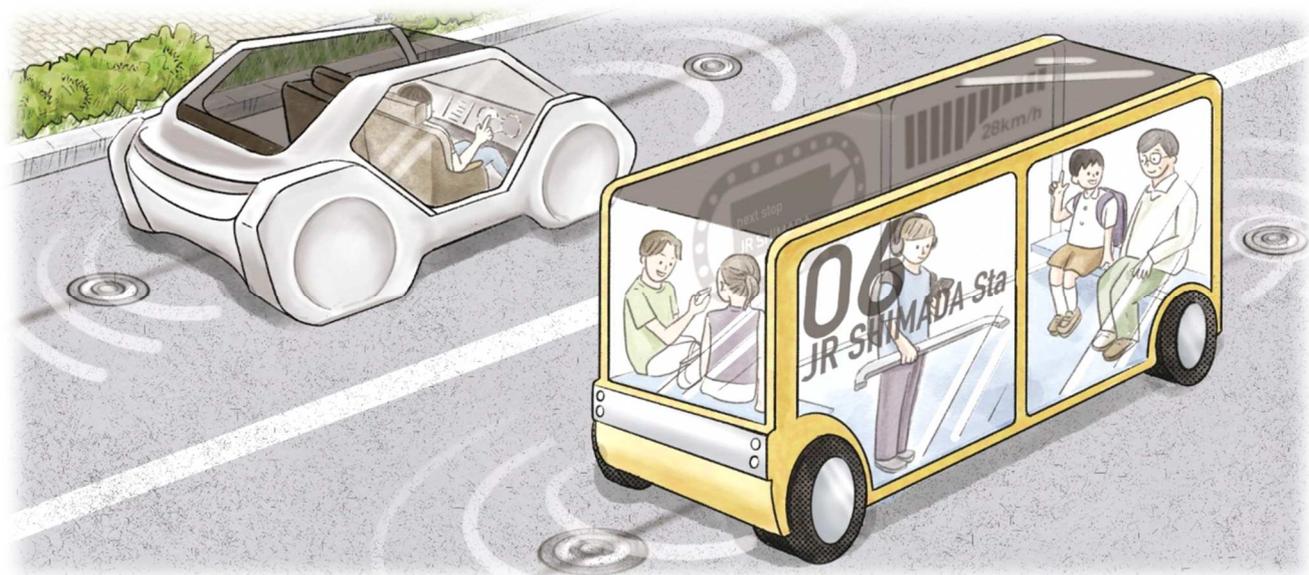
1 市民の生活を支える公共交通

- 看護師が患者宅を訪問し、車両内でオンライン診療を受けられる。
- 移動販売が発達し、ドローンで配送するシステムも普及している。
- 外出に不安を抱える人も、安心して生活ができる。



2 市民の豊かな暮らしを支える公共交通

- インターネットで注文すると、自動運転のタクシー車両が家の前まで迎えに来てくれる。
- AIが最適ルートを決めて、近所の人と相乗りで楽しくおしゃべりしながらおでかけができる。



3 活気のあるまちなかを作るための公共交通

- 市街地巡回交通やタクシー、シェアサイクルや電動キックボードなどのさまざまな交通手段があり、住む人だけでなく遊びに来た人や働く人も自由にまちなかを移動できる。
- 小型EV車両などの環境に配慮した車両が普及している。
- 緑豊かな公園やおしゃれな飲食店が並び、活気のあるまちなかになっている。



4 島田市をまるごと楽しむための公共交通

- バス、電車、タクシーなど、様々な交通手段の乗換案内が一つのアプリで確認できて、予約や決済が簡単にできる。
- 駅や空港から観光施設を回れる観光プランを利用することで、自分で経路を調べることなくスムーズに観光を楽しめる。
- 駅前には各地への行き方、乗り場や出発時間がわかるデジタルサイネージがある。多言語対応していて、外国人も安心。



基本方針と目標

本市の現状や課題をもとに、本計画における基本方針と目標を以下のように決めました。

基本方針

市民の暮らしとまちづくりを支える 持続可能な公共交通サービス



目標1 安心して暮らし続けるための公共交通の整備

- 買い物、通院、通学、通勤に必要な公共交通を確保します。
- 地域のニーズに対応した交通モードを導入します。

- 【施策】
- ① タクシー利用促進策の検討
 - ② デマンド交通など新たな交通モードの導入検討
 - ③ 既存バス路線のダイヤ、ルートの見直し

成果指標	現状値	目標値
新たな手段による公共交通の運行を開始した地区の数	6地区	12地区
公共交通カバー率	73.4%	78.7%

目標2 まちづくりと連動した公共交通網の形成

- 立地適正化計画の方針に沿い、居住誘導区域内の公共交通の充実化を図ります。

- 【施策】
- ① 市街地循環路線の導入検討
 - ② 中心市街地の新たな移動手段の検討
 - ③ 自動運転など次世代交通システムの導入検討

成果指標	現状値	目標値
中心市街地コミュニティバス乗降者数	141,301人	214,000人
中心市街地における歩行者等の通行量	5,836人/日	6,033人/日

目標3 みんなで支える持続可能な公共交通の実現

- 運行内容を見直し、適正な予算執行に努めます。
- 地域が主体となって公共交通を考え、いっしょに実行します。

- 【施策】
- ① 利用状況に応じた運行内容の見直し
 - ② 地域別ワークショップの開催
 - ③ 地元主体運行、外出支援事業の推進

成果指標	現状値	目標値
地域公共交通運行平均収支率	10%	20%
外出支援事業を実施する団体数	4団体	8団体

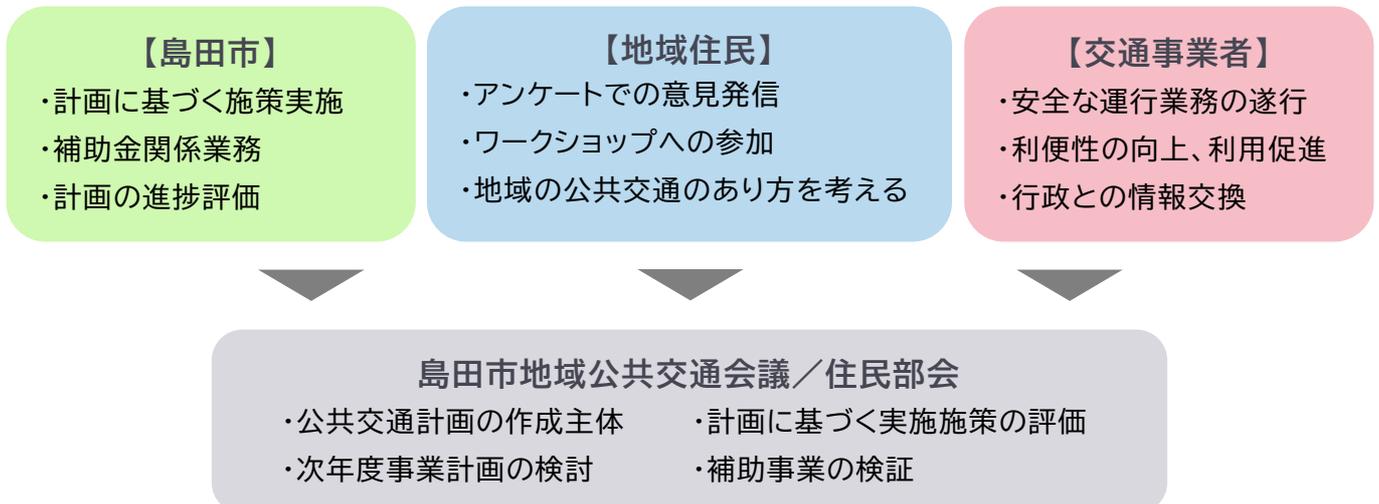
目標4 誰もが利用しやすい公共交通サービスの提供

- 誰もが利用しやすいバス交通を目指して環境整備を行います。
- コミュニティバスに関する情報発信、利用促進を行います。

- 【施策】
- ① バス停などの環境整備
 - ② 探しやすくわかりやすい情報発信
 - ③ イベント・講座などを通じた利用促進

成果指標	現状値	目標値
地域公共交通利用者数	171,814 人	260,000 人
公式SNSアカウントフォロワー数	399	1,000

施策の実施主体、役割分担



地域の公共交通における各運行系統の位置づけ・役割

	役割	確保・維持策
広域幹線		
各鉄道路線	都市拠点から市外への広域交通を担う。	交通事業者と協議の上、一定以上の運行水準を確保する。
乗合バス 島田静波線	島田駅および島田市立総合医療センターを発着地として、島田市、吉田町、牧之原市の各拠点を連絡する。	地域公共交通確保維持事業(幹線補助)を活用し持続可能な運行を行う。
拠点間路線		
乗合バス 金谷島田病院線 伊久身線、湯日線	公共交通網における基幹的な役割を担う。中心拠点と他の地域拠点を連絡する。	交通事業者と協議の上、一定以上の運行水準を確保する。
乗合バス 川根温泉線		地域公共交通確保維持事業(フィーダー補助)を活用し持続可能な運行を行う。
地域内路線		
乗合バス 大津線、島田駅東線、六合南線 大代線、金谷循環線、相賀線 菊川神谷城線、笹間渡笹間線	中心拠点、地域拠点、交通結節点を発着地とし、各地域内の移動を担う。	地域のニーズに合った規模の運行を行う。 持続可能な交通網を目指し、必要に応じて他交通モードへの転換を図る。
乗合バス 田代の郷温泉線		地域公共交通確保維持事業(フィーダー補助)を活用し持続可能な運行を行う。
空港アクセスバス 富士山静岡空港島田線 富士山静岡空港金谷線	富士山静岡空港とJR島田駅及び金谷駅を連絡する役割を担う。	県及び交通事業者と協議の上、アクセスの向上に努める。
その他		
乗合バス 萩間線、勝間田線	JR金谷駅と牧之原市の相良地区、榛原地区を連絡する。	関係市町と協議の上、一定以上の運行水準を確保する。
スクール混乗路線 市尾塩本線、一色上河内線、石風呂葛籠線、笹間線	主に川根地域の小・中学生の通学による移動を担う。	小・中学生の通学需要に合わせた運行を継続する。
乗合タクシー(区域運行) ゆいたく	交通空白地域である中講、吹木地区からコミュニティバス湯日線に接続する役割を担う。	運行内容について地域と協議を行い、ニーズに合わせた運行を行う。
介護・福祉タクシー	川根地域に居住する要介護者、身体障害者などの移動支援サービスを担う。	引き続きサービスの維持に努める。
地元主体運行 ゆめバス 地区社会福祉協議会による移動支援事業	日常生活の移動に困難を抱える方を地域で支援する役割を担う。	活動主体を支援し活動継続を推進するとともに、島田市社会福祉協議会と協力し他地域への展開を図る。

■地域間幹線系統の必要性

島田静波線は、島田市内外の拠点間を連絡し、通勤通学、買物、通院等の日常生活行動だけではなく、観光、ビジネス等、多様な目的での移動を担う。起終点の島田駅前並びに静波海岸入口では、他モードや地域内交通と連絡し、公共交通ネットワークを構築する上で特に重要な役割を担っている。一方で、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。

■地域内フィーダー系統の必要性

川根温泉線は、中心拠点である島田駅と地域拠点である家山駅から周辺部の居住地、観光・交流拠点である川根温泉、川越街道等を連絡する路線であり、地域の移動手段としての役割を担っている。田代の郷温泉線は、中心拠点である島田駅から周辺部の居住地、田代の郷温泉や、ゆめ・みらいパーク等の施設を連絡する路線であり、地域の移動手段としての役割を担っている。またこれらの路線は、島田駅では東海道本線や島田静波線などへの接続により広域への移動も可能とするなど、地域間幹線系統を補完する欠かせない路線である。一方で、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。

補助系統に係る事業及び実施主体

系統名	起点	経由地	終点	事業許可区分	運行様態	実施主体	補助事業の活用
島田静波線	島田市立総合医療センター	島田駅	静波海岸入口	4条乗合	路線定期運行	交通事業者	幹線補助
金谷島田病院線	金谷駅前	島田駅	島田市立総合医療センター	4条乗合	路線定期運行	交通事業者	
伊久身線 (御堂沢系統)	御堂沢	山の家	島田駅	4条乗合	路線定期運行	島田市(運行は交通事業者に委託)	
伊久身線 (向谷系統)	向谷四丁目	三ッ合町	島田駅	4条乗合	路線定期運行	島田市(運行は交通事業者に委託)	
川根温泉線	川根温泉ホテル	家山駅前	島田駅	4条乗合	路線定期運行	島田市(運行は交通事業者に委託)	フィーダー補助
相賀線 (島田駅～北中学校)	北中学校	はなみずき	島田駅	4条乗合	路線定期運行	島田市(運行は交通事業者に委託)	
相賀線 (北中学校～上相賀)	上相賀	寺前橋	北中学校	79条(交通空白地有償運送)	路線定期運行	島田市(運行は交通事業者に委託)	
湯日線	本村	六合駅	島田駅	4条乗合	路線定期運行	島田市(運行は交通事業者に委託)	
田代の郷温泉線	伊太和里の湯	伊太団地	島田駅	4条乗合	路線定期運行	島田市(運行は交通事業者に委託)	フィーダー補助
大津線	天徳寺	ばらの丘二丁目	島田駅	4条乗合	路線定期運行	島田市(運行は交通事業者に委託)	
六合南線	六合駅	六合東小学校東	六合駅	4条乗合	路線定期運行	島田市(運行は交通事業者に委託)	
島田駅東線	島田駅	御仮屋南	島田駅	4条乗合	路線定期運行	島田市(運行は交通事業者に委託)	
金谷循環線	金谷駅前	金谷庁舎前	金谷駅前	4条乗合	路線定期運行	島田市(運行は交通事業者に委託)	
菊川神谷城線	金谷駅前	ふじのくに茶の都ミュージアム	金谷駅前	4条乗合	路線定期運行	島田市(運行は交通事業者に委託)	
大代線	栗島公民館	KADODE OOIGAWA	金谷駅前	4条乗合	路線定期運行	島田市(運行は交通事業者に委託)	
笹間渡笹間線	家山駅前	村上	日掛	79条(交通空白地有償運送)	路線定期運行	島田市(運行は交通事業者に委託)	
萩間線 (金谷駅前系統)	相良本通	牧之原小学校	金谷駅前	4条乗合	路線定期運行	牧之原市、島田市(運行は交通事業者に委託)	
萩間線 (金谷小学校系統)	相良本通	水呑	金谷小学校	4条乗合	路線定期運行	牧之原市、島田市(運行は交通事業者に委託)	

系統名	起点	経由地	終点	事業許可区分	運行様態	実施主体	補助事業の活用
勝間田線 (金谷駅前系統)	静波海岸入口	勝間	金谷駅前	4条乗合	路線定期運行	牧之原市、島田市 (運行は交通事業者 者に委託)	
勝間田線 (金谷小学校系統)	静波海岸入口	勝間	金谷小学校	4条乗合	路線定期運行	牧之原市、島田市 (運行は交通事業者 者に委託)	
ゆいたく (湯日地区デマンド 型乗合タクシー)	中講・吹木 地区	本村バス停・ 湯日線	中講・吹木 地区	4条乗合	区域運行	島田市(運行は交 通事業者 に委託)	
富士山静岡 空港島田線	富士山 静岡空港		島田駅	4条乗合	路線定期 運行	交通事業者	
富士山静岡 空港金谷線	富士山 静岡空港	新金谷駅	蓬莱橋	4条乗合	路線定期 運行	交通事業者	

スクールバス混乗路線

系統名	起点	経由地	終点	事業許可区分	運行様態	実施主体	補助事業の活用
市尾塩本線	川根小学校	家山駅前	一徳寺	43条 (スクールバス)	路線定期 運行	島田市(運行は交 通事業者 に委託)	
一色上河内線	川根小学校	家山駅前	上河内	43条 (スクールバス)	路線定期 運行	島田市(運行は交 通事業者 に委託)	
石風呂葛籠線	川根小学校	家山駅前	葛籠	43条 (スクールバス)	路線定期 運行	島田市(運行は交 通事業者 に委託)	
笹間線	川根小学校	家山駅前	日掛	43条 (スクールバス)	路線定期 運行	島田市(運行は交 通事業者 に委託)	



SHIMADA
GREEN Ci-TEA
JAPAN